

減災まちづくり情報システム (ISDM)

- このシステムは、名古屋大学減災連携研究センターと名古屋都市センターが共同で開発しているものです。
- 地理情報システム (GIS) を活用し、地形図や被害想定図などの防災・減災に関する情報を1つの地図上に表示することができ、地区の災害リスクの把握やまち歩きなどに活用できます。



旧版地図と液状化被害想定

ガイドライン本編

- ガイドライン本編では、この概要版リーフレットの内容に加えて、取り組みメニューの詳細や、まち歩きや防災・減災マップ作成の方法なども解説しています。
- 詳しくは名古屋都市センターHPをご覧ください。

地区の減災まちづくりガイドライン

お問合せ先
 公益財団法人 名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター
 〒460-0023 名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル13階
 TEL: 052-678-2216 FAX: 052-678-2211 http://www.nui.or.jp

地区の減災まちづくりガイドライン

概要版

名古屋都市センター
 減災まちづくり研究会
 平成28年3月

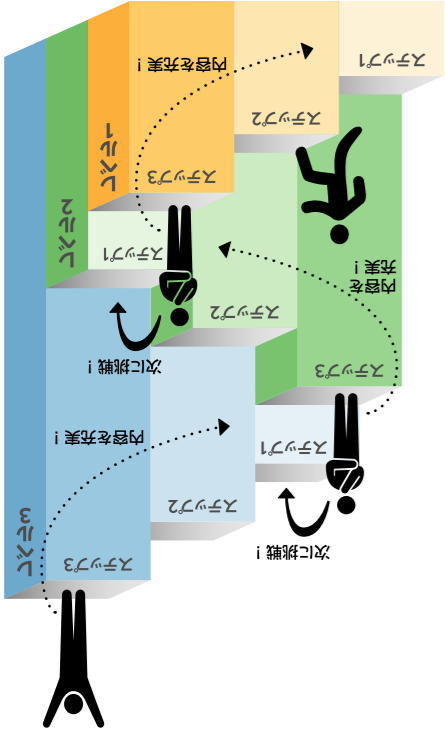
取り組みレベルアップメニュー

- ステップ1、2、3と一通りの取り組みを終えたら、再度、チェックリストで「できたこと」を確認し、次のレベルに挑戦するか、同じレベルで内容を充実するか、検討しましょう。
- 地区の委員や団体、事業所、専門家、行政などとも協力し、みんなで、楽しく、取り組みを続けましょう。
- ★ 地区の状況は変化します。「できたこと」も見直しましょう。

みんなでき
 取り組みよう

楽しく
 取り組みよう

続けて
 取り組みよう



取り組みレベル

- 各レベルでは、ステップ1から順に取り組みを進めましょう。
- 各ステップでは、「できそうなこと」や「必要なこと」から取り組みアツツしましょう。

ステップ1 調べる

- 取り組みに必要な知識や情報を得よう
- 取り組みの必要性の理解
- 取り組みの基礎知識の習得
- 地区の状況の把握

ステップ2 備える

- 調べた知識や情報をもとに必要な対策を考え、実践しよう
- 取り組み体制の整備
- 必要な対策の検討
- 対策の実践と見直し

ステップ3 広める

- “調べた知識や情報、備えた対策をみんなに伝え、共有しよう”
- 取り組み成果に関する情報の提供
- 取り組み成果に対する意見の聴き取り
- 取り組み成果の見直しと共有

取り組みレベル

- チェックリストで診断されたレベルの取り組みを進め、順にレベルアップしましょう。

レベル1 防災・減災の機運を高める

- 防災・減災への関心を高め、仲間をつくらう
- 住民同士の顔の見える関係づくり
- 自主防災組織などの結成・活性化
- 防災・減災の普及・啓発

レベル2 自助・共助に取り組み

- “災害時に適切な行動がとれるよう準備しよう”
- 防災・減災マップの作成・共有
- 助け合いのルールづくりの作成・共有
- 自助・共助の普及・啓発

レベル3 事前復興まちづくりに取り組む

- “被災後に迅速な復興が図れるよう準備しよう”
- 事前復興ワークショップの作成・共有
- 災害に強いまちづくりの実践
- 様々なまちづくりへの展開

取り組みレベルチェックリスト

- チェックリストから順に地区で「できていること」にチェックを付けましょう。
- チェックが2つ以下の場合、右のレベルに取り組みましょう。
- チェックが3つ以上の場合、次のレベルに進み、同様に確認しましょう。

チェック1 防災・減災への関心について

- 住民が気軽に集まれる場がある
- 自主防災組織などが活動している
- 行事や集まり、回覧板などで防災・減災に関する情報を提供している
- 住民の防災・減災への関心は高いようである

チェック2 自助・共助について

- 災害時の危険箇所や避難場所などの情報を共有している
- 住民による災害時の応急活動やその役割分担などの助け合いのルールを定めている
- 防災・減災訓練を実施している
- 住民の自助・共助の意識は高いようである

チェック3 事前復興まちづくりについて

- 地区の魅力や課題などについて話し合っている
- 被災後の地区の復興について話し合っている
- 災害時の危険箇所の改善や防災・減災広場の確保などの災害に強いまちづくりに取り組んでいる
- 住民のまちづくりへの関心は高いようである

いつ起こってもおかしくない南海トラフ巨大地震

南海トラフで30年以内に地震が発生する確率70%

マグニチュード9.0 建物消失約66,000棟
 最大震度7 死者約6,700人

※名古屋市 あらゆる可能性を考慮した最高クラスの地震による被害想定

ガイドラインの役割

- このガイドラインは、主に町内会や自治会などで減災まちづくりを進める方を対象としたものです。
- 地区のレベルに応じた減災まちづくりの取り組みを示し、地区をレベルアップさせていく3つの役割を持っています。

役割1 取り組みレベルの診断

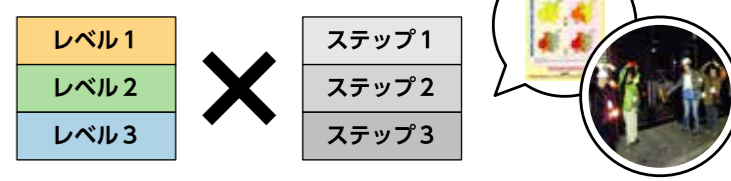
- チェックリストで地区の防災・減災について「できていること」を確認し、取り組みレベルを診断することができます。

役割2 取り組みメニューの案内 (裏面参照)

- 防災・減災の取り組みを「3つのレベル」と「3つのステップ」に整理し、各レベルの各ステップで取り組むことを案内しています。
- チェックリストで診断されたレベルを選択し、ステップ順に取り組むことで、地区をレベルアップさせていくことができます。

役割3 取り組みメニューの詳細解説 (本編参照)

- 各レベルの各ステップの取り組みの必要性、進め方、参考文献、先進事例、名古屋市の主な関連施策などを案内しています。
- 詳しくはガイドライン本編をご覧ください。



取り組みメニュー

- 防災・減災の取り組みを「3つのレベル」と「3つのステップ」に分類し、各レベルの各ステップで取り組むべきことを案内しています。チェックリストで診断されたレベルのステップ1から順に取り組みましょう。
- ステップ1、2、3と一通りの取り組みを終えたら、再度、チェックリストで「できたこと」を確認し、**次のレベルに挑戦**するか、**同じレベルで内容を充実**するか、検討しましょう。

ステップ1 調べる

“取り組みに必要な知識や情報を得よう”

【主な方法】

- 文献や減災まちづくり情報システムの活用
- 講演会やセミナーなどへの参加
- 現場視察やまち歩きなどの実施
- ヒアリングやアンケートの実施

ステップ2 備える

“調べた知識や情報をもとに必要な対策を考え、実践しよう”

【主な方法】

- 話し合いや意見交換の実施
- ワークショップの実施

ステップ3 広める

“調べた知識や情報、備えた対策をみんなに伝え、共有しよう”

【主な方法】

- 行事や集まりなどでの周知
- 回覧板や掲示板、HP、SNSなどへの掲載
- 説明会や報告会などの開催

レベル3 事前復興まちづくりに取り組む

“被災後に迅速な復興が図れるよう準備しよう”

【名古屋市の主な関連施策】

- 震災に強いまちづくり
- 地域まちづくり

行政に
相談しよう！

3-1 事前復興まちづくりを知ろう！

- 事前復興まちづくりの必要

3-3 事前復興ビジョンを描こう！

- 被災状況のイメージ
- 復興において目指す地区の将来像の検討
- 将来像の実現のための方針の検討

3-4 災害時の危険箇所を改善しよう！

- 建物の耐震化・不燃化やブロック塀の撤去などの呼び掛け
- 木造住宅密集地域などの建替えルールづくり
- オープンスペースの確保